

1 災害の種類と被災者・被災地が求めるもの

[1] 災害とは

地震や台風などの災害は、多くの尊い命を奪い、財産、生活の基盤などに大きな損害を与えます。また、災害が発生する前に成り立っていた社会システムや生活のサイクルなどに大きな影響を与えるばかりか、場合によってはそれらを根底から覆す力を持っています。

災害とは

- 『暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他の及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害』
(災害対策基本法 昭和36年11月15日法律第223号)
(※政令で定める原因は、放射性物質の大量の放出、多数の者の遭難を伴う船舶の沈没その他の大規模な事故となっています。)

災害の種類を分類すると、表1のようになります。

◆表1

カテゴリー		災害の原因
自然災害	気象災害	台風、豪雨、豪雪、雪崩、雷、雹、高潮、洪水、波浪、かんばつ、山崩れ など
	地変災害	地震、火山噴火、山崩れ、地すべり、津波 など
	動物災害	病虫害、伝染病、風土病 など
人為災害	都市災害	大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、廃棄物汚染、放射能汚染、大火災 など
	産業災害	列車・航空・船舶事故、鉱山事故、工場などの大規模な事故 など
	管理災害	管理不備、設計・施工不備、医療事故 など
武力攻撃災害		戦争、紛争、テロ など

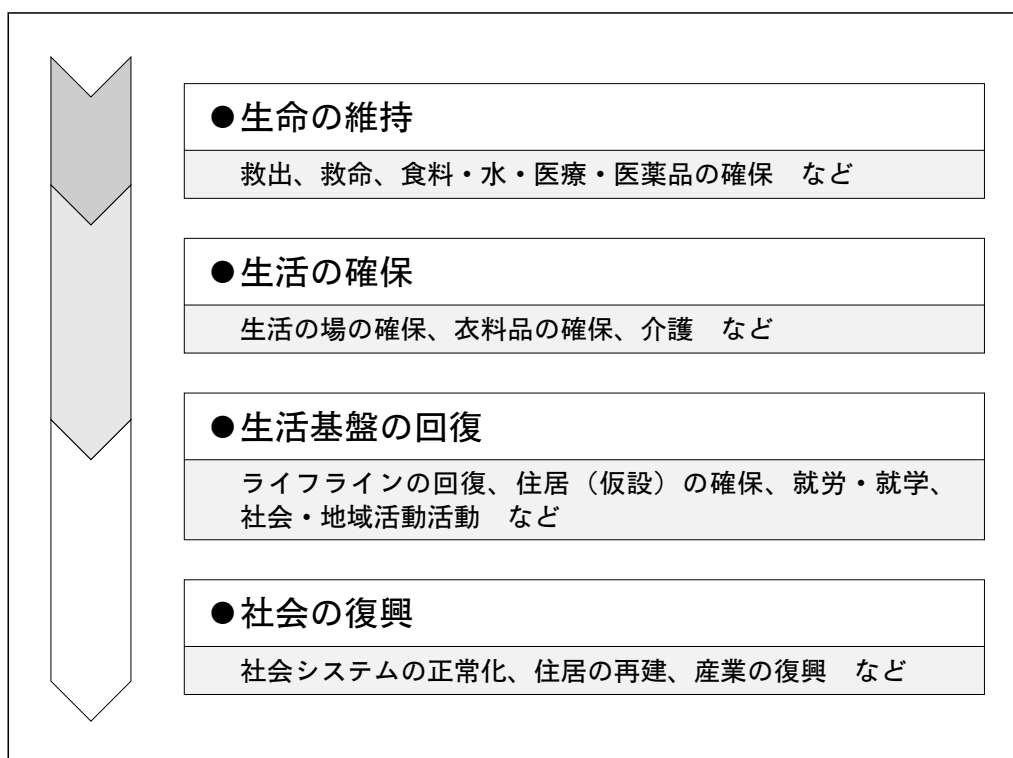
[2] 被災者・被災地が求めるもの

災害により被災者や被災地が求めるものは、災害の種類や規模、発生の時期や場所、被害の種類などにより多様に変化します。その実態や変化を的確に把握することが、災害救援をするうえで大変重要です。

阪神・淡路大震災（平成7年）と新潟県中越大震災（平成16年）では、同じ地震でも神戸市など大都市での被害と、積雪を考慮した建物が多い新潟県の中越地方での被害では、建造物被害だけを比べても大きな違いがありました。その地域の気候や地形、習慣など総合的に考慮した救援活動が大切になります。

しかし、被災者が求めるものは、ある程度共通しています。第一に、救命、治療、食料などの生命の維持と、生活の場や衣料品などの生活の確保です。第二に、住居の確保や就労、社会・地域活動などを回復させるなど、生活基盤の回復です。この後で被災した地域全体の社会システムを、通常の状態（被災前）にするための復興活動が求められることになります。

図1



災害ボランティア活動は、これら被災者をとりまく環境の変化を正しく受け止め、的確な支援活動を展開しなければなりません。

[3] 時間経過と状況の変化

災害が発生してからの時間経過とともに、被災者・被災地が求めるものは変化します。地震の場合と水害の場合を想定して、それらをフェーズ（段階・局面）ごとに状況の変化を示したのが表2です。

◆表2

フェーズ		状 況
フェーズ0	【緊急救命期】 地震：0～3日 水害：0～1日	- 救命活動が中心となる段階で、自分や家族、近隣で救命活動を展開します。 - 自治会や消防団、自主防災組織などが中心となり、住民による救援活動が主体となります。
フェーズ1	【緊急対応期】 地震：3～30日 水害：0～20日	- 消防や自衛隊、公的機関などによる組織的救援活動が開始されます。 - 被災地外からの支援やボランティア活動も開始される段階です。
フェーズ2	【応急対応期】	- 緊急対応が収束し、仮設住宅建設なども始まるなど、本格的な復旧活動が展開されます。 - 復興計画なども検討される段階です。
フェーズ3	【復興期】	仮設住宅などへの入居も終わり、避難所もほとんどが閉じられ、復興計画に基づき復興活動が展開されます。

以上のように、災害発生から復興段階まで常に状況は変化します。ただし、ここに記載した事項も、災害の種類や規模・時期・場所などの違いにより変わってきます。